

質疑応答 (要旨)

ご理解いただきやすいように表現の変更や加筆・修正を行っている箇所があります。

Q: 第 1 四半期のオフリングサービスが前年同期比減益になった理由を教えてください。通期の増益計画に対して想定通りなののでしょうか。今後増益に転じるタイミングについてはどうお考えでしょうか。

A: 減益となった主な要因は、サービス型ビジネスの推進に伴うソフトウェア償却費が約 4 億円増加したことや新規連結に向けた PMI コスト 1 億円弱のほか、当セグメントに限りませんが営業活動の活発化による販管費の増加や人材投資強化に伴う人件費の増加です。計画と比べてやや遅れをとっていると認識していますが、事業活動自体では収益を出せていますので、事業活動をしっかり伸ばして打ち返していく考えです。なお、ソフトウェア償却費の前年同期比増加は第 2 四半期までの見込みです。

Q: B PMセグメントの業況が良くないということですが、どういう手を打っているのでしょうか。減益傾向はどのあたりで止められるとお考えでしょうか。

A: 前下期から既存のお客様の業務量減少等により B PO 領域の苦戦が続いており、第 1 四半期も業務量が回復しなかったこと等から、上期の計画達成は厳しい状況と認識しています。短期的にはコストサイドの見直しも含めて通期計画を達成できるように進めていきます。デジタル化の進展により B PO に求められるものが変化していますが、変化に対応した B PO の提供による案件受注も出始めています。また、B PO だけにとどまらず、業務プロセス全般を IT で支えることで打ち返していこうと考えています。

Q: 第 1 四半期の金融 IT の受注高におけるクレジットカード系大型案件の反動減影響はどのくらいだったのでしょうか。また、この案件については、上期が業務のピークで下期からはピークアウトするとのご説明を期初計画時点ですべてされていたので、今後も受注高の減少が見込まれるのでしょうか。

A: 第 1 四半期におけるご指摘の大型案件の反動減影響は約 35 億円でした。また、この案件は計画通りに進捗していますので、前第 2 四半期にまとまった受注高を計上していたことを考えれば、第 2 四半期において 10 億円程度の減少もありうるというのが現時点での想定です。

Q: 受注環境について、今後の見通しをお聞かせ下さい。

業界が全体的に堅調のように感じる中、第 1 四半期の金融 IT は大型案件除きでも緩やかな伸びようですし、広域 IT ソリューションも地方や中堅中小企業の IT 投資が強まっていそうな状況からすれば微増というのはやや物足りなさを感じています。今後、受注高の伸び率が力強さを増すタイミングはどのように想定されていますでしょうか。

A: 金融 IT や産業 IT は反動減影響等がある中で根幹先のお客様を中心に打ち返しを少しずつ進めている状況です。広域 IT ソリューションは前期から好調が続く中で地方自治体、病院・医療系や製造業と幅広く IT 需要の波をしっかりと捉えたことで高い水準を維持していると評価しています。

全般的に IT 投資需要が非常に強いトレンドに大きな変化はないと認識していますが、第 2 四半期には先ほどのクレジットカード系大型案件の減少に加えて、すでにご案内済の公共系金融機関において大型開発受注約 65 億円の反動減が見込まれており、さすがにこれらを全て打ち返すのは難しいと思っています。こうしたことも踏まえ、期初計画時点から下期の受注積上げが重要であると認識していましたので、引き続きパイプラインを積み上げて第 3 四半期以降でプラスに転じることができるようグループ丸となって取り組んでまいります。

Q: 売上高の今後の見通しについて教えてください。

当期は金融 IT ではクレジットカード系と公共系金融機関のピークアウト、産業 IT では製造業の根幹先顧客の IT 投資一巡がありますが、第 1 四半期の受注高の状況を踏まえて、これらをカバーして会社計画通りの売上高が見込めそうなのかどうか教えてください。

A: 受注高の伸び率は強いとは言えませんが、受注残高がしっかりと積み上がっていますので、上期の売上高は計画を達成できるのではないかと考えています。通期については、先ほどコメントしたとおり、受注積上げに取り組んでいくことで計画を達成できるように進めてまいります。

Q: 第 1 四半期の金融 IT 及び産業 IT の営業利益率が前年同期比で大きく改善しています。金融 IT に関しては大型案件の寄与によるものと思いますが、それぞれ営業利益率が良かった背景についてご説明下さい。

- A：金融ITについては、お察しのように大型案件の安定推進及び根幹先のお客様の需要をしっかりと取り込めたことによるものです。産業ITについても、ERPや製造業向け等、いくつかある大きなプロジェクトが順調に進んでいることもあり、営業利益率の改善に寄与しています。
- Q：第1四半期の利益率が良かったというご説明からしますと、第2四半期もこの状況を維持できそうという理解をしてよいでしょうか。金融ITは大型案件の影響ということですが、その案件が収束すると利益率は低下する方向に向くと思います。一方で産業ITは全体的に引き合いが強いとのことで、第2四半期以降も継続性がありそうなのでしょうか。
- A：第1四半期については、特に金融IT、産業ITの案件をしっかりと進めたことで、ある程度のアップサイドを見ていた中でも強めに着地したと思っています。第2四半期についても、現時点で計画に対する進捗は問題ないと思っていますので、まずは上期計画を達成できるようにしっかりと進めたいと考えています。
- Q：大幅な処遇改善による人件費増は通期計画に沿って推移していると考えてよいでしょうか。また、貴社は処遇改善の実施を早めに発表されましたし、昨今のご時世からも顧客側の単価上昇の受け容れが進展したことで、第1四半期の収益性が改善したのではないかと考えているのですが、継続性を含めていかがでしょうか。
- A：人材投資強化に伴う人件費増は計画に沿った推移だと考えています。また、期初にご説明したように、お客様への価値提供力を向上することについては今回の人材投資のみを契機に実施しているわけではなく、地道ながら継続的に実施しています。良好な事業環境もあってこうした取組みの成果も出ていますが、第1四半期の収益性向上には大型案件を安定推進したことが大きく寄与したと考えています。第2四半期以降もお客様へのさらなる価値提供力の向上を進めていくことで引き続き収益性を向上させていきたいと考えています。

以 上